

別記様式（第 7 条関係）

会 議 録

- 1 会議の名称 富士川町立図書館協議会
- 2 会議日時 令和 6 年 7 月 23 日（火） 16 時 00 分から
16 時 53 分まで
- 3 開催場所 富士川地方合同庁舎 2 階共用会議室
- 4 出席者数
 - (1) 委員 9 名
 - (2) 事務局 2 名
 - (3) 傍聴者 0 名
- 5 欠席者数
 - (1) 委員 1 名
- 6 議題
 - ① 令和 5 年度図書館費決算について
 - ② 令和 5 年度図書館事業実績について
 - ③ 令和 6 年度図書館事業計画について
 - ④ その他
- 7 協議会内容
 - (1) 開会
 - (2) 会長あいさつ
 - (3) 議題
 - ① 令和 5 年度図書館費決算について
 - ② 令和 5 年度図書館事業実績について
 - ③ 令和 6 年度図書館事業計画について
 - ④ その他
 - (4) その他
 - (5) 閉会

8 発言の内容

① 令和5年度図書館費決算について

事務局 資料を用いて説明

議長 質問・意見はあるか

委員 図書の購入費で、近隣図書館と比べると富士川町は図書費が9,400,000円で頑張っているなと思う。近隣図書館の図書等の購入費で、住民一人当たりの額が大きく、新聞雑誌費が極めて大きい図書館があるが理由はわかるか。

事務局 今回の報告から、近隣図書館のデータを参考として載せている。額の大きい図書館の前年度決算を確認したところ、住民一人当たりの額は記載の二分の一であった。何か特別な購入をされたので額が大きくなったのだと思う。

委員 図書費が1,000万円以上ということで、住民ニーズに合っている予算をもらっていると思う。非常にありがたい。できればこの1,000万円以上の予算を来年以降も継続してほしい。来年以降、予算額が下がるようであれば、あまり意味がないのではないか。予算額の維持をお願いしたい。

② 令和5年度図書館事業実績について

事務局 資料を用いて説明

議長 質問・意見はあるか

委員 利用状況のレファレンスについて、学校からの要請はあるか。そこに一番関心がある。

事務局 掲載した数値は、その場でお応えできるような簡易なレファレンスではなく、調べて回答するもののみの数値である。児童が夏休みの宿題で、地域のことを調べるために図書館に来館することはあるが、直接学校から図書館への依頼は、昨年度はなかった。

委員 本の貸し出しだけでなく、レファレンスが図書館の役割として非常に

大事なのではないかと日頃から思っている。ぜひ職員のレファレンス力をつけていくことも含めて、図書館の運営をやっていただきたい。

事務局 レファレンス力の向上にも努めていく。簡易なクイックレファレンス数は、昨年は1,970件あった。どのぐらいニーズがあるかという部分も引き続き研究していく。

委員 利用登録数の2,549人というのは多い方か。

事務局 町立図書館として開館し、利用カードも新しくなったので、登録数をゼロからカウントし直した。そのため、昨年度に比べて利用登録数は減ってはいるが、初年度の利用登録数としては、想定通りである。

委員 役場職員や町議会議員は全員登録をしているか。本来図書館というのは、本を読む人が来るだけではなく、今話題にでたとおり、レファレンスというのが非常に大事である。せっかくいい図書館を作ったのだから職員や議員も利用し、レファレンスもしてほしい。図書館の予算や決算も最終的には町議会が承認したり否決したりするので、ぜひ議員には利用するよう伝えてほしい。

委員 ブックスタートは、子育て支援課のとてもいい事業だと思う。最初は7、8カ月児を対象ということで、最初のスタートということは大事だなと思っているが、是非2回目を3歳児検診の時に行うことはできないか。町長も子育ての町として力を入れるということなので、進めてほしい。

事務局 6月議会の一般質問で「2日目の絵本のプレゼントができないか」という質問があり、子育て支援課で答弁をした。町立図書館が開館し、おはなし会を開催していることや配本サービスを始めたことなど本に触れる機会をつくっていることから、絵本のプレゼントにかわる形でカバーしていきたいと回答をさせて頂いたところである。

委員 そのような話題が議会に出たことは良かった。図書館で借りた本は、やはり壊してはいけないと気を遣うもの。小さいお子さんだとおもちゃ替わりの面もある。読み聞かせをしてもらうとか、展示していただく、見せてもらうだけではない、本を持つことの意味、豊かさみたいなものがあると思う。もっと身近にこそ本があることが大事かなと思うので、

今後も検討いただきたい。

③ 令和 6 年度図書館事業計画について

事務局 資料を用いて説明

議長 質問・意見はあるか

委員 放課後児童クラブへの出張サービスとあるが、学校にも拡大させてほしい。規模が小さい学校は、特定の人間ばかりの関わりなので、外部の人に来てもらい、読み聞かせをしてもらうのは貴重な機会だ。読書週間に、図書館職員に来てもらうとか蔵書を貸していただけると、充実した集会活動になると思う。

事務局 今年度は、毎月開催のかるがもおはなし会の他に、奇数月開催のぺんぎんおはなし会を増やした。それらの会は、ボランティアではなく全て職員で行っている。出張サービスはぺんぎんおはなし会がない偶数月に行っている。図書館としても初めてのことで、どの程度ニーズがあるかわからなかったため、対象は町内保育施設とした。学校は学校司書の配置があるので、まずは司書がいない保育施設に出張サービスを実施した。今年度通試してみても学校へも出張が行えるかどうか検討していく。「子どもの読書推進計画」もあるので、図書館としても子どもたちに読書の機会を増やすことを行っていきたいと思っている。

委員 イベントについて、富士川町出身で芥川賞作家の保坂和志さんがいらっしゃるの、近いうちにぜひ講演会をお願いしたい。
この町唯一の芥川賞作家なので、もっとアピールして、町民に知ってもらうことも図書館の仕事だと思う。

委員 こんなに小説家を輩出してる町はない。図書館発信の講演会みたいなものではなく、もう少し手が届くようなもの、ワークショップ的な小説家を育てていくようなものを地元にいる小説家の方に協力していただいて実施ができないか。昨日偶然ニュースで見たのだが、九州の町で執筆活動を行う作家を募集したようだ。地域おこしの一環で、文学賞作家を輩出した町にしたいということ。そんなことをしなくても、富士川町にはすごい小説家が何人もいるのにとっている。それならばもうちょっと身近な「小説の書き方」のようなことを小学校高学年か

ら中学生ぐらいにやってみては。それは遠方から来ていただく大きなイベントよりは、在住の方に骨を折っていただくのが一番いいと思う。この町から新たな小説家が誕生したら素晴らしい。私もワークショップなどを図書館発信でできたらなと。図書館は受験勉強のためだけにあるのではない。

わざわざお金を使って作家を育てる計画をやる町があるのを考えると、この町には宝がいっぱいある。そんな話をできる機会だったので、意見させてもらった。

議事終了

閉会